

き者でない。三十五年間放置されたる論説が何故今日問題化されたか、幕末時代に南北朝論が起り、それが明治維新の忠愛思想の發露となつた今日日本が一大飛躍の前夜に當り非常なる困難を感ずる原因が何であるかを考へる事が出来る。美濃部憲法に依る天皇機關説なるものは如何なるものであるか、天皇は統治權の主體でなく國家の最高機關である。即ち天皇は國家機關の一部なりとし天皇の大權行使は議會の協贊、國務大臣の副署を要するが故に天皇大權は絕對無限に非ずと説いてゐる。國務大臣の副署を要する陛下の詔勅に對し批議論離しても敢て不敬には非と論ずるに至つては許す事の出来ざる學説である。君を親と敬ひ國を家となす家族主義の日本では、かかる個人主義による西洋の國家團體説、國家法人説即ち天皇機關説は徹底的に粉碎せよ。

財團協調會福岡出張所

財團協調會福岡出張所

次に國家の直接機關は天皇の委任ではないとして議會を天皇と對立せしめてゐる。又國務大臣は天皇の實に任ずるに非ず議會の實に任ずるものとして説いてゐる。嘗て第五十八議會に於て濱口首相はロンドン條約により國防が保てない時は議會に實を取ると言つた事はこの美濃部學説より出た不逞惡慮なる思想である。統治權は上御一人に屬するものに非ずとして特權階級、支配階級が天皇の大權を壟斷するが如き事を擁護してゐるのは斷じて許されぬ。次に統帥權獨立は何等憲法には根據がないと説いてゐる。之は憲法制定に參與された金子爵の御話に依れば明らかに大權事項として明記されたものであり、美濃部學説こそ根據なきものである。此の點よりしてロンドン條約は明らかに大權干犯である。軍令部長の同意を得なかつた事が樞密院で問題となつた時濱口首相は軍令